



17 イスラエル人は、ベニヤミンを除いて、剣を使う者四十万人を招集した。彼らはみな、戦士であった。

18 イスラエル人は立ち上がって、ベテルに上り、神に伺って言った。「私たちのために、だれが最初に上って行って、ベニヤミン族と戦うのでしょうか。」すると、主は仰せられた。「ユダが最初だ。」

19 朝になると、イスラエル人は立ち上がり、ギブアに対して陣を敷いた。

20 イスラエル人はベニヤミンとの戦いに出て行った。そのとき、イスラエル人はギブアで彼らと戦うための陣ぞなえをした。

21 ベニヤミン族はギブアから出て来て、その日、イスラエル人二万二千人をその場で殺した。

22 しかし、この民、イスラエル人は奮い立って、初めの日に陣を敷いた場所で、再び戦いの備えをした。

23 そしてイスラエル人は上って行って、主の前で夕方まで泣き、主に伺って言った。「私は再び、私の兄弟ベニヤミン族に近づいて戦うべきでしょうか。」すると、主は仰せられた。「攻め上れ。」

24 そこで、イスラエル人は次の日、ベニヤミン族に攻め寄せたが、

25 ベニヤミンも次の日、ギブアから出て来て、彼らを迎え撃ち、再びイスラエル人のうち一万八千人をその場で殺した。これらの者はみな、剣を使う者であった。

26 それで、すべてのイスラエル人は、全民こぞってベテルに上って行って、泣き、その所で主の前にすわり、その日は、夕方まで断食をし、全焼のいけにえと和解のいけ

にえを主の前にささげた。

27 そして、イスラエル人は主に伺い、一当時、神の契約の箱はそこにあった。

28 当時、アロンの子エルアザルの子ピネハスが、御前に仕えていた一そして言った。

「私はまた、出て行って、私の兄弟ベニヤミン族と戦うべきでしょうか。それとも、やめるべきでしょうか。」主は仰せられた。

「攻め上れ。あず、彼らをあなたがたの手に渡す。」

イスラエルは自分たちで戦うと決めて、攻撃をしかけましたが、結局ベニヤミン族に痛手を被り、そこではじめて主に「戦うべきでしょうか」と、伺いを立てました。

主は行くように命じられましたが、またもイスラエルは敗北し、次には断食と全焼のいけにえをささげ、伺いを立てました。このときは主は「彼らをあなたがたの手に渡すと」約束してくださり、ベニヤミン族は敗北に向かいました。

伝道や愛を行うことなどは、「すべきでしょうか」というよりも、「どのように」と主に伺うべきですが、争いは別です。始めてしまってから主に聞くというのは信仰的とは言えません。ましてや雰囲気は踊らされて戦いに加わってしまう、全体がいつのまにか動かされてしまった…などという事態は避けなければなりません。

彼らは戦いがうまくいかなくて初めて主に聞きました。それでも聞かないよりは良いのであって、彼らの信仰の姿勢がだんだん整えられて、最後は献身を表す全焼のいけにえをささげました。

主に聞きましょう。もしもみこころか聞かずに初めてしまったら、途中からでも主に聞きましょ

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

